気血水とは

黄　懐龍

当資料の転載、複製、改変等は禁止いたします。

一、概　念

　気血水は気血津液のことで、人体を構成する最も基本的な物質であり、臓腑・経絡など組織器官の生理活動の原動力（営養物質や、エネルギー提供）でもある。

　一方、気血津液の生成と代謝は、臓腑・経絡など組織器官の正常な生理活動に頼ることもある。

二、気について

気は、身体を構成する基本的な物質で（物質の気）、人体の生理機能である（機能の気）。

（一）気の種類：

元気(げんき)、宗気(そうき)
営気(えいき)、衛気(えき)
臓腑の気(心･肝･脾･肺･腎気)

（二）気の機能：

推動(すいどう)、温煦(おんく)
防御(ぼうぎょ)、固摂(こせつ)
気化(きか)

（三）気の運動形式：　昇・降・出・入

肝気（疏　泄）　：上（昇）と外（出）
脾気（昇　清）　：上（昇）
胃気（和　降）　：下（降）
肺気（宣　降）　：外（出）と下（降）
腎気（封蔵納気）：内（入）と下（降）

（四）気の病証

気の運動の基本形式は、昇、降、出、入で、気の病変は一般に気虚、気陥、気滞、気逆の四種に統括されている。

証型	症　　状	治療	方剤
気　虚	顔色晄白、倦怠乏力、倦怠感、声低懶言、眩暈自汗、風邪を引きやすい、舌淡、脈虚など全身の機能低下の証候が見えます。	補気益気	四君子湯
気　陥	体が痩せて、気虚証に更に食少腹脹、慢性の下痢、胃下垂、子宮下垂や脱肛などの内臓下垂症状がみられます。	益気昇挙	補中益気湯

気　滞	痞え脹満、脇腹脹痛、ゲップ、腹部ガスが溜まるなどが現れます、遊走不定、時軽時重、精神状態によって証候が変わる、苔薄脈弦	行気 理気	半夏厚朴湯 平胃散
気　逆	咳嗽喘息、しゃっくり、噫気ゲップ、悪心嘔吐、或は肝気上亢の頭痛、眩暈、昏厥、嘔血など。	降気 鎮逆	神秘湯 小半夏加茯苓湯 抑肝散

三、血について

- 「血液」とほぼ同じであると考えています。

（一）血の機能：

- 主に体を栄養と滋潤する機能であり、全身の臓腑・経絡・皮膚・筋肉や精神活動の物質基礎でもある。
-

（二）血の組成と生成：

- 主に中焦の水谷精気により、身体に営養を与える「営気」、及び身体を潤す「津液」を主成分で組成し、故に「脾胃は気血生化の源」と称されます。又、腎精と血は互いに転化できます。故に、「精血同源」という

（三）血の運行：

　血液は心気により、脈管を通して全身に循環し、一部は肝に貯蔵される。
　血液の運行には心気の推動と脾気の固摂作用が必要である。

（四）血の病証

証型	症　　状	治療	方剤
血虚	顔色蒼白或いは萎黄、唇や爪の色がうすい、眩暈立眩み、心悸不眠、手足のしびれ、月経過少、周期が遅れ、閉経、舌淡白、脈細無力などである。	補血養血	四物湯
血熱	発熱、衄血、喀血、吐血、血尿、舌紅絳、脈弦数など証候で、治療は清熱涼血する。	清熱涼血	三黄瀉心湯
血寒	少腹冷痛、寒がり、四肢が冷え、温めると楽になる。治療では温経散寒方法である。	温経散寒	当帰四逆加呉茱萸生姜湯

血瘀	血瘀気虚：気虚証と血瘀証が同時に現れる、疲労倦怠、声低懶言、自汗脱力感、疼痛拒按、舌紫暗或いは瘀斑。	補気通絡活血祛瘀	コウジン末＋桂枝茯苓丸
	血瘀血虚：眩暈心悸、不眠、舌淡、疼痛拒按、痛みの部位は固定的、舌紫暗或は瘀斑、脈渋。	補血活血祛瘀	疎経活血湯
	血熱搏結：発熱、疼痛が刺痛、灼痛、冷やすと軽減する、鼻、歯、皮膚などの出血、舌暗紅、脈渋、数。	凉血祛瘀	三黄瀉心湯＋田七末
	寒客血脈：肢体疼痛、暖めると軽減、手足が冷たく紫暗色になる或いは少腹部冷痛、月経後期、経血は紫暗色で血塊を伴う、舌淡暗、苔白、脈沈遅渋。	温経散寒活血祛瘀	当帰四逆加呉茱萸生姜湯

5、気血同病

症型	症　　状	治療	方　剤
気血両虚	少気瀬言、自汗乏力、顔色蒼白、又は萎黄、心悸失眠、舌淡嫩、脈細弱。	気血両補	十全大補湯(四君子+四物湯)
気不摂血	慢性出血、気短、倦怠無力、顔面蒼白、脈軟弱細微、舌淡など	補気摂血	帰脾湯
気随血脱	大量出血、同時に顔色蒼白、四肢厥冷、大汗淋漓、甚だしければ暈厥、脈微細且つ欲絶或は孔脈	補気固脱	独参湯（コウジン末） 参附湯
気滞血瘀	胸脇脹満、遊走性疼痛、痞塊が見られ、刺痛拒按、舌質紫暗或は瘀斑、脈細澀	理気活血	血府逐瘀湯(四逆散+桂枝茯苓丸)

四、津液について

- （一）津液の概念
- 津液とは人体正常体液の総称です。

津 薄く、流動的、体表、皮膚、汗孔に分布し、滋養作用である。

液 濃く、流動ではなく、関節、臓、腑、髄などの組織に注入し、潤って養う作用である。

・（二）津液の生成と輸布

- 1、肺臓：主宣発粛降、「肺は通調水道」
- 「肺は水の上源である」

- 2、脾臓：主運化（水湿）、「脾気散精」

- 3、腎臓：主水、主気化、主膀胱気化

- 4、三焦：津液が流れる通路である

（三）津液の機能

-

1、滋養作用

体の五官、五体、皮毛、臓腑などを滋養する

・2、血液の成分

血液を組成する基本物質である。

・3、調整陰陽

津液の生成と代謝は、人体の陰陽を調節に重要な役割を果している。

・4.廃棄物を排泄

津液は自身の代謝により、体内代謝産物を体外に排泄する。

（四）津液の病証

津液不足（傷津、脱液）陰虚	口燥咽乾、唇焦か唇裂、眼窩凹陥、皮膚が乾燥してつやを失う、口渇による飲水、小便短少、大便乾結、舌紅少津、脈細数です。	滋陰潤燥	肺陰虚（清燥救肺湯） 心陰虚（甘麦大棗湯） 脾陰虚（資生湯） 肝陰虚（一貫煎） 腎陰虚（六味地黄丸） 胃陰虚（麦門冬湯）

水液停滞

水腫	陽　水： 臨床表現は、頭面浮腫、眼瞼から始まり、迅速に全身に及び、小便短少、皮膚が薄くぴかぴかする。常に悪風、悪寒、発熱、肢体痛楚、咽喉痛等を伴い、苔は白く、脈は浮緊	宣散 粛降 温陽 利水	越婢加朮湯 など
	陰　水： 腰以下が甚だしく、押すと凹陥したまま、小便短少。脘閉腹脹、細呆便溏、神倦肢困、畏冷喜温、腰膝冷痛、四肢厥逆。顔色は青白く、舌は淡胖、苔は白滑、脈は沈遅で無力。	健脾 温腎 通陽 利水	真武湯 牛車腎気丸 など

痰証	咳嗽咯痰、痰質粘稠、胸悶嘔悪、脘痞納呆、頭目暈眩、神昏で喉中に痰鳴、神乱で癲、痴、癇或いは瘰癧（リンパ結核、乳癖（乳房内の痞塊）、痰核、舌苔は膩、脈は滑などが見られる。	祛湿化痰	二陳湯、竹茹温胆湯など
飲証	稀薄な水液が臓腑組織の間に停滞し、病気を引き起こすことを飲証といいます。その臨床表現も飲が溜まる場所によりさまざまとなります。飲が溜まる場所により、痰飲（飲証の一種で、狭義的な痰飲、飲が胃腸に停留すること）、支飲（飲が肺に停留すること）、懸飲（飲が胸脇に停留すること）、溢飲（飲が皮下組織に停留すること）などがる。	温陽化飲	真武湯、苓桂朮甘湯など

ご清聴ありがとうございました！